

2020.10.10

紙つぶて

私は以前、衆院選に出て「公人」になってしまったため、精神科医としてストイックに控えてきたことが台無しになってしまった。

精神科医がどれほど自己開示するか。例えば患者さんと同じ病を医師が持っていたとする。「私も同じ病気だから気持ちわかります」と言うことがよいと思っている人も多いだろうが、実際は逆である。患者さんには、安心できる環境で自らの話を存分にしてほしい。しかし、「この先生も同じ症状で悩んでいる」などという優しい心遣いから、自分の話もできなくなってしまう患者さんは少なくない。

私は第一子を大学病院で働いていたときに出産

精神科医の自己開示

水島 広子

したが、おなかがあまり大きくならなかったし白衣も余裕があったので、実は出産したことを知らない患者さんが多かった。患者さんに余計な気を使わせたり落ち込ませたりしたくないので、私はそれで満足だった。

今は社会とのつながりを維持したいため、ツイッターは利用している。「ちょっとおもしろい話」くらいはプライベートの領域でもちらりと白状しているが、深刻な悩み事は書かない。それは私の問題であって、患者さんの問題ではないから。確かに、特に失敗話をして打ち解けるのは社会的に「あり」だが、精神科医は慎重であるべきだと私は思っている。

(精神科医)